

株式会社キカガク

～教育を軸に人材領域で企業の DX を支援～



会社概要 / 事業紹介



会社概要

- 社名 : 株式会社キカガク
- 代表者 : 大崎 将寛
- 設立 : 2017年1月17日
- 従業員 : 120名
- 資本金 : 20,499,140円

法人研修・人材育成支援



企業の課題に合わせたカスタマイズ研修や
先端技術を最短で学べる動画学習プラットフォーム

受託開発・コンサルティング



AIモデル開発・コンサルティング企業の
DX推進を支援

スクール



AI・データサイエンスに特化した
6ヶ月間の長期コースを運営

キャリア



学生・社会人を先端IT人材へと育成し、
企業に紹介

ワークス



プラットフォームを通じて
先端技術を持った人材と企業を繋ぐ

受講生 15 万名以上、クライアント 1,000 社以上



日本経済新聞への記事掲載

日経新聞に記事広告を掲載しました。

2022年からDX人材育成に伴走支援させていただいているSUBARU様との対談形式となっています。

■掲載概要

- 掲載場所：日経新聞 紙面・電子版
- 記事内容：
 - SUBARU様のDX人材育成について
 - DX人材育成のパートナーとして
キカガクを選んだ理由
 - これまでの取り組みの成果

電子版の記事は以下よりご覧いただけます。
<https://www.kikagaku.co.jp/download>



▼電子版（2025/3/17～掲載中）

▼紙面（2025/3/17朝刊）

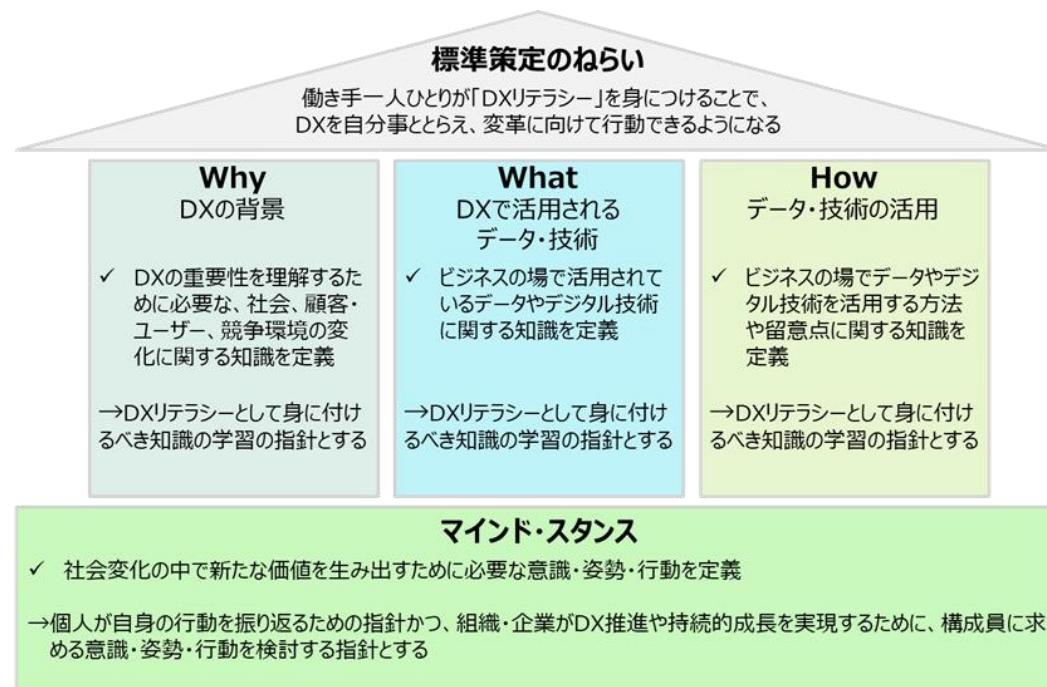
参考：デジタルスキル標準



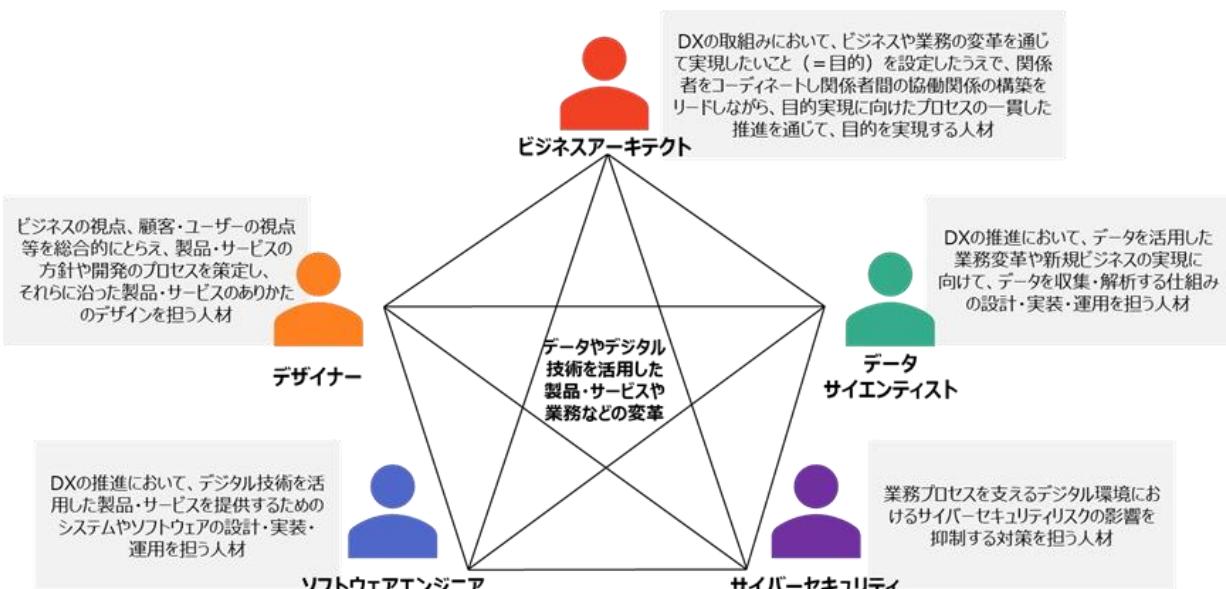
経済産業省と IPA が DX 推進人材向けにデジタルスキル標準を取りまとめました。以下2つから構成されます。

- ✓ ビジネスパーソン全体が DX に関する基礎的な知識やスキル・マインドを身につけるための指針である「DX リテラシー標準」
- ✓ 企業が DX を推進する専門性を持った人材を育成・採用するための指針である「DX 推進スキル標準」

DX リテラシー標準



DX 推進スキル標準



経済産業省「「デジタルスキル標準」をとりまとめました！」より引用 (<https://www.meti.go.jp/press/2022/12/20221221002/20221221002.html>)

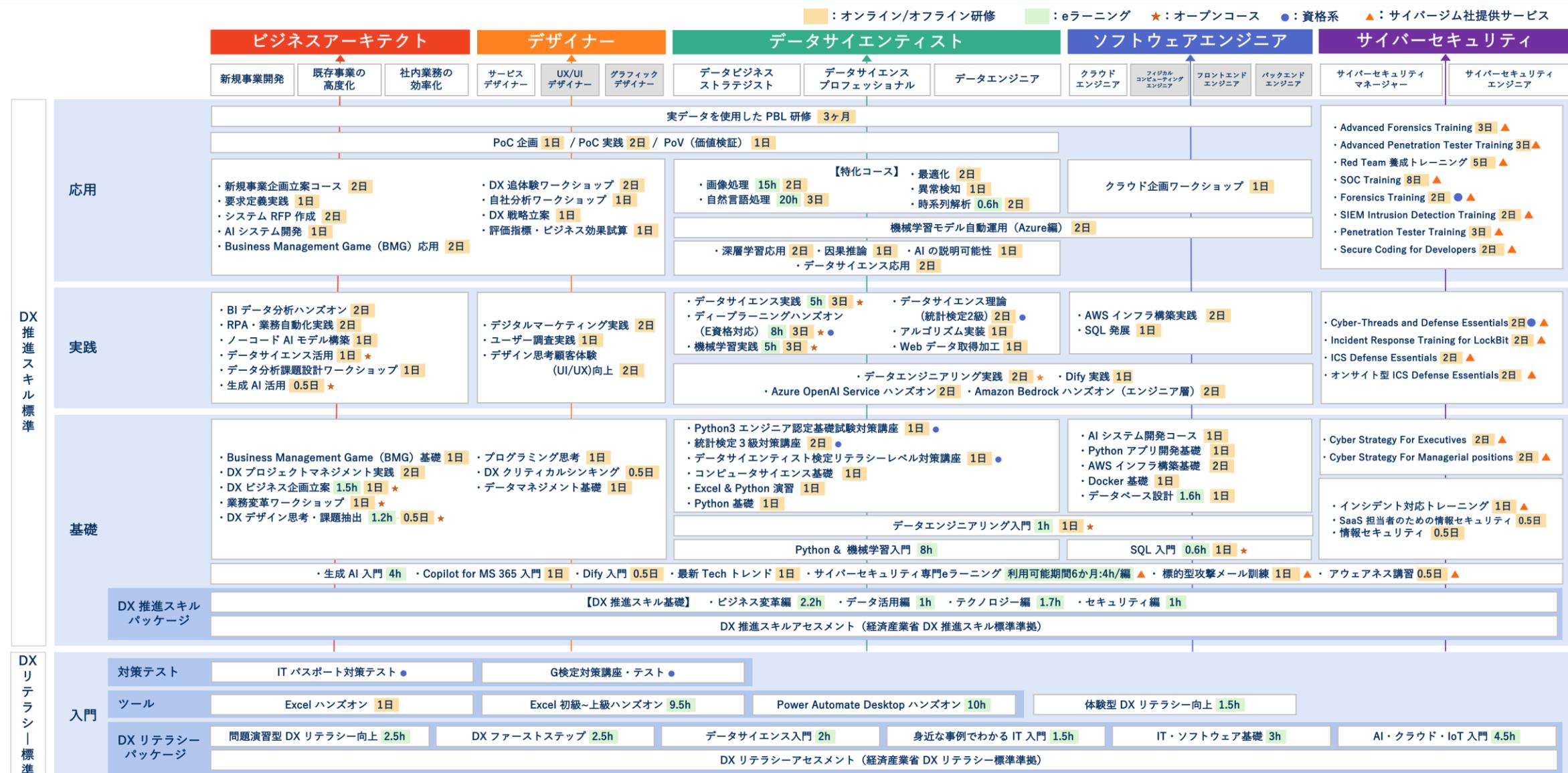
DX 推進人材の役割と教育プラン



期待する役割

期待する役割	教育プラン・主なコース
ビジネスアーキテクト	5日～ ・デジタルを活用したビジネスを設計し、一貫した取組みの推進を通じて、設計したビジネスの実現に責任を持つ ・関係者をコーディネートし、関係者間の協働関係の構築をリードする
デザイナー	3日～ ・顧客・ユーザー視点でのアプローチを、取組みの関係者が常に意識できるように導く ・倫理的観点を踏まえた顧客・ユーザーとの接点（製品・サービスと顧客・ユーザーとが関わるポイント）のデザインを行う
データサイエンティスト	9日～ ・自社や自組織の競争力向上につながるデータ活用を実現する ・DXにおけるデータ活用領域を担い、必要に応じて、他の人材類型と柔軟に連携する
ソフトウェアエンジニア	5日～ ・高い技術力を通じて自社や自組織の競争力向上に貢献する ・変化の激しい状況の中でも、他のステークホルダーと柔軟に連携し、価値を生み出す ・自らの手で競争力のあるソフトウェアを創り出せる水準の高い技術力を維持・獲得する
サイバーセキュリティ	2日～ ・DXによる価値提供とセキュリティ対策とのバランス確保を通じて自組織の戦略遂行に貢献する ・外部のサイバーセキュリティ専門事業者も活用しながら、兼務でも可能な範囲で担うべき業務を遂行 ・他の人材類型と連携して、DX推進に伴うデジタル環境のリスクによる被害を抑制

人材育成ロードマップ：デジタルスキル標準対応



キカガクはDX実現のためのすべてのフェーズをサポート

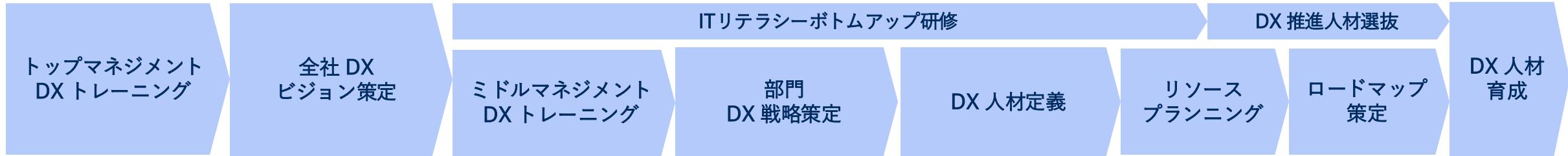


0. DX 推進について

推進の全体像

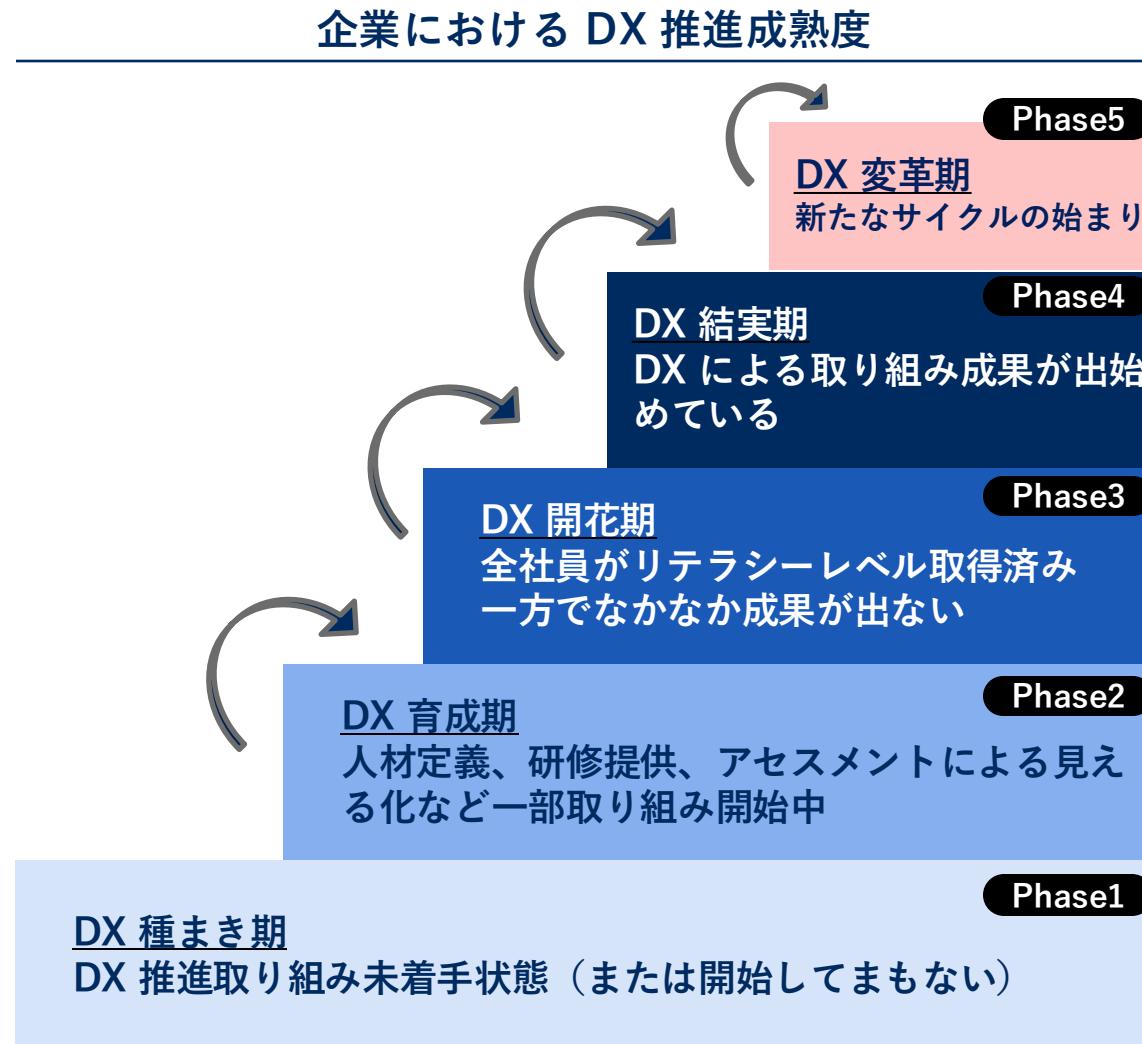


効果的な DX 人材定義を策定するには、会社としてどのようにデジタルエクセレンスを達成していくのか
(=部門ごとの DX 戦略) 明確化が必要



対象	目的	実施内容	ゴール（アウトカム）
トップマネジメント (CEO~執行役員)	全社 DX ビジョン策定のためのナレッジ会得	<ul style="list-style-type: none">・全社DXビジョン策定・トップマネジメント DX トレーニング	<ul style="list-style-type: none">・全社DXビジョン
ミドルマネジメント (部門長)	DX 戦略策定のためのナレッジ会得	<ul style="list-style-type: none">・ミドルマネジメント DX トレーニング研修	<ul style="list-style-type: none">・部門ごとのDX戦略・DX人材定義
DX 推進人材	各戦略を達成するために必要な	<ul style="list-style-type: none">・スペシャリティ専門トレーニング	<ul style="list-style-type: none">・スキルフルなDX人材
全社員	全社員のIT/AIに関するリテラシーの向上	<ul style="list-style-type: none">・IT リテラシートムアップ研修・アセスメント	<ul style="list-style-type: none">・アセスメント結果・DX 推進人材の選出

企業のデジタル変革の段階と各フェーズにおける課題

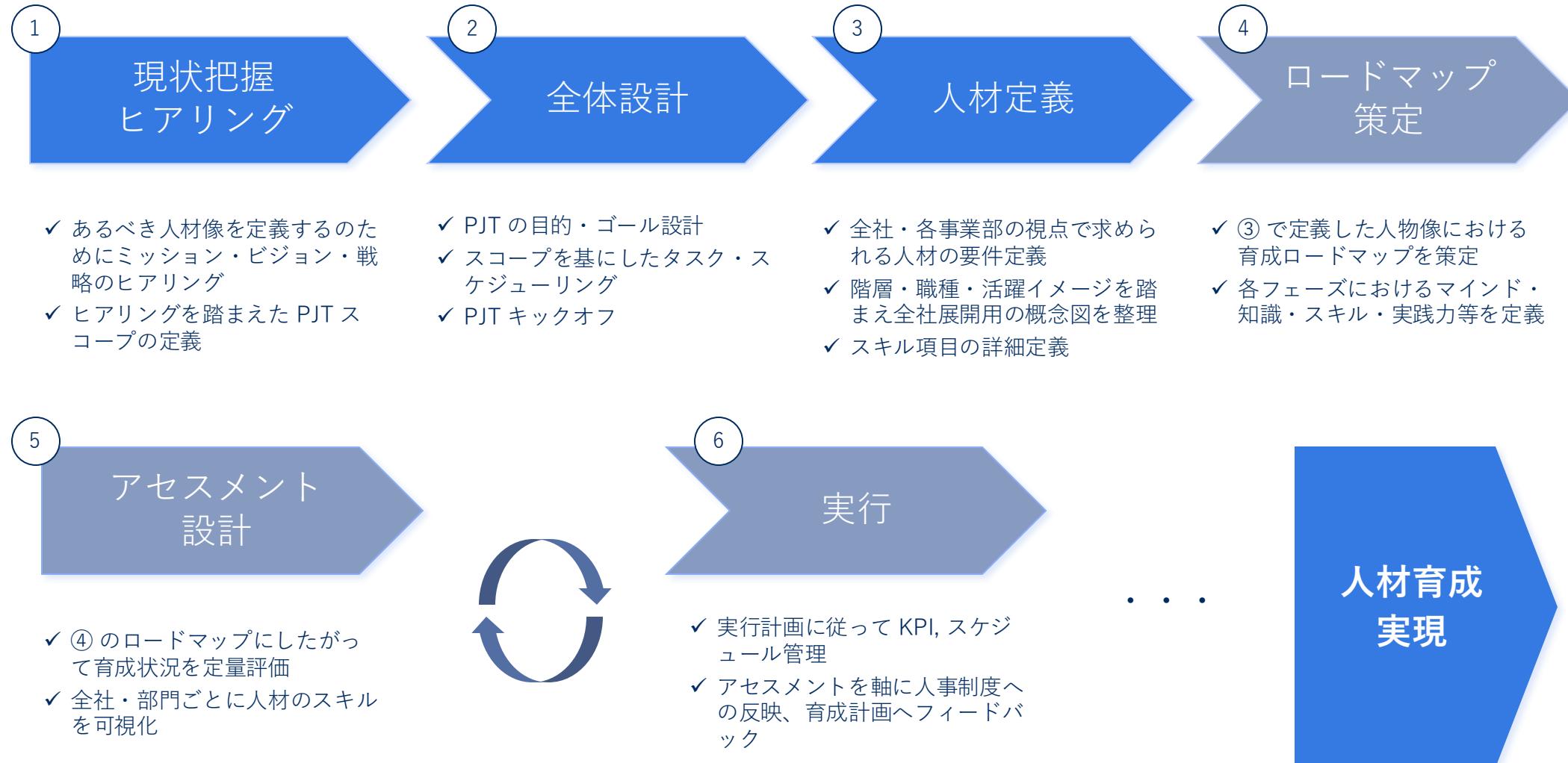


各フェーズにおけるよくある課題

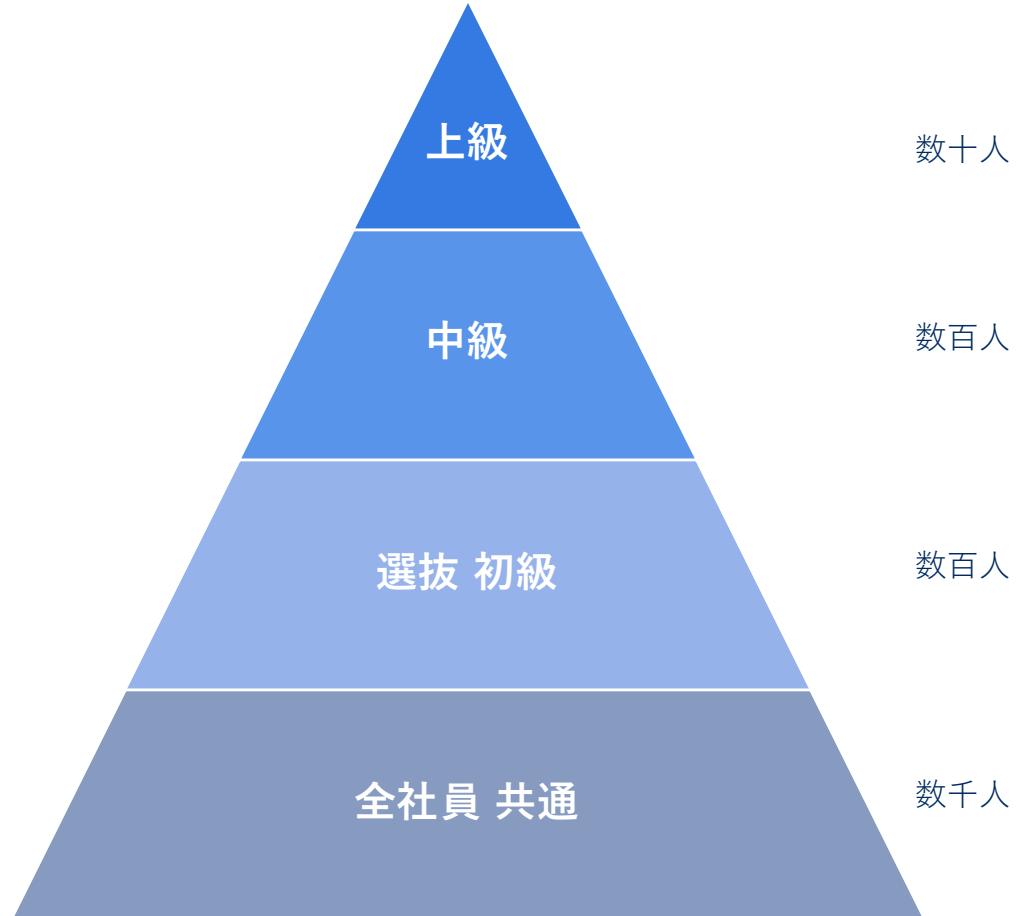
- 自発的・自律的な DXへの取り組みは開始されているものの、一部業務の変革レベルに留まる
- 継続的なイノベーションを推進することが難しい
- 全社員に対してデジタルリテラシーレベルは育成済みだが、なかなか成果につながらない
- ビジネスアーキテクト人材の育成に課題感を感じている
- DX 人材類型定義に着手したものの、自社に合うタイプがわからない
- 育成のためのロードマップやキャリアパス策定ができていない
- 経営層は無関心か、関心があっても具体的な取り組みに至っていない
- DX 推進のために何から取り組めばよいかわからない状態

1. 人材育成計画策定

デジタル人材育成コンサルティング 全体フロー



成果物イメージ（概念図）



	ビジネス プランナー	データサイエン ティスト	データ エンジニア
発展
応用	DXの知識を有しデジタルツールを活用できる。 事業課題を整理し企画の立案からプロジェクト推進までリードできる人材	データ分析を行うための数学・統計の知識を有し、データサイエンスや機械学習などを用いてデータ活用を推進できる人材	データマネジメント・ガバナンスの考え方を理解している。社内外のデータを収集・蓄積・処理し、データの利活用を促進できる人材
基礎
リテラシー	IT・デジタルなどDXに欠かせない知識をインプットし、組織変革を図るためのDXリテラシーを有している。 時代の潮流や業界事例を通じてDXの必要性や可能性を感じることができる。		

成果物イメージ（人材別詳細定義）



期待行動	世の中にあるシステムを活用し、業務改善ができる																																																																																																																	
役割 主な業務	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社内業務の課題と課題解決の目的を定義し、データやデジタル技術を活用した新たな業務プロセスの設計やプロセスを実行するための技術や手法・ツールの選定を行う ✓ 新たな業務プロセスの実現可能性、新たなプロセスによる課題解決の可否、ソリューションの有効性を検証し、計画の策定やソリューションの要件定義や実装を行う ✓ 顧客・ユーザーからのフィードバックやKPIのモニタリングを通じて、プロセスやソリューションの収益性向上する施策（コストの削減等）を継続的に検討・実行する ✓ 構想から効果検証まで一貫して、関係者全体のコーディネート（必要なリソースの確保、チームの組成、適材適所を意識した偏りのないタスクの割り振り、関係者間の合意形成の促進等）を担う 																																																																																																																	
必要なスキル	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>カテゴリー</th><th>サブカテゴリー</th><th>スキル項目</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">ビジネス変革</td><td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">戦略・マネジメント・システム</td><td>ビジネス戦略策定・実行</td><td>d</td></tr> <tr> <td>プロジェクトマネジメント</td><td>c</td></tr> <tr> <td>変革マネジメント</td><td>c</td></tr> <tr> <td>システムエンジニアリング</td><td>c</td></tr> <tr> <td>エンジニアリング・開発</td><td>c</td></tr> <tr> <td>プロジェクトマネジメント</td><td>b</td></tr> <tr> <td>ビジネス調査</td><td>c</td></tr> <tr> <td>ビジネスモデル設計</td><td>d</td></tr> <tr> <td>ビジネスアナリシス</td><td>c</td></tr> <tr> <td>検証（ビジネス視点）</td><td>c</td></tr> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">デザイン</td><td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">マーケティング</td><td>マーケティング</td><td>d</td></tr> <tr> <td>プランニング</td><td>d</td></tr> <tr> <td>顧客・ユーザー理解</td><td>c</td></tr> <tr> <td>価値発見・定義</td><td>c</td></tr> <tr> <td>設計</td><td>d</td></tr> <tr> <td>検証（顧客・ユーザー視点）</td><td>c</td></tr> <tr> <td>その他のデザイン技術</td><td>d</td></tr> <tr> <td>データ・AIの戦略的活用</td><td>b</td></tr> <tr> <td>データ・AI活用戦略</td><td>c</td></tr> <tr> <td>データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価</td><td>c</td></tr> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">データ活用</td><td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">数理統計・多变量解析・データ可視化</td><td>数理統計・多变量解析・データ可視化</td><td>d</td></tr> <tr> <td>機械学習・深層学習</td><td>d</td></tr> <tr> <td>データ活用基盤設計</td><td>d</td></tr> <tr> <td>データ活用基盤実装・運用</td><td>d</td></tr> <tr> <td>コンピュータサイエンス</td><td>d</td></tr> <tr> <td>チーム開発</td><td>d</td></tr> <tr> <td>ソフトウェア設計手法</td><td>d</td></tr> <tr> <td>ソフトウェア開発プロセス</td><td>c</td></tr> <tr> <td>Webアプリケーション基本技術</td><td>d</td></tr> <tr> <td>フロントエンドシステム開発</td><td>d</td></tr> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">データ活用</td><td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">バックエンドシステム開発</td><td>バックエンドシステム開発</td><td>d</td></tr> <tr> <td>クラウドインフラ活用</td><td>d</td></tr> <tr> <td>SREプロセス</td><td>d</td></tr> <tr> <td>サービス活用</td><td>c</td></tr> <tr> <td>フィジカルコンピューティング</td><td>c</td></tr> <tr> <td>その他の先端技術</td><td>d</td></tr> <tr> <td>テクノロジートレンド</td><td>c</td></tr> <tr> <td>セキュリティ体制構築・運営</td><td>d</td></tr> <tr> <td>セキュリティマネジメント</td><td>c</td></tr> <tr> <td>インシデント対応と事業継続</td><td>c</td></tr> <tr> <td rowspan="9" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">データ活用</td><td rowspan="9" style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">プライバシー保護</td><td>プライバシー保護</td><td>b</td></tr> <tr> <td>セキュリティ設計・開発・構築</td><td>d</td></tr> <tr> <td>セキュリティ運用・保守・監視</td><td>d</td></tr> <tr> <td>リーダーシップ</td><td>a</td></tr> <tr> <td>コラボレーション</td><td>b</td></tr> <tr> <td>ゴール設定</td><td>a</td></tr> <tr> <td>創造的な問題解決</td><td>b</td></tr> <tr> <td>批判的思考</td><td>a</td></tr> <tr> <td>適応力</td><td>b</td></tr> </tbody> </table>		カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目		ビジネス変革	戦略・マネジメント・システム	ビジネス戦略策定・実行	d	プロジェクトマネジメント	c	変革マネジメント	c	システムエンジニアリング	c	エンジニアリング・開発	c	プロジェクトマネジメント	b	ビジネス調査	c	ビジネスモデル設計	d	ビジネスアナリシス	c	検証（ビジネス視点）	c	デザイン	マーケティング	マーケティング	d	プランニング	d	顧客・ユーザー理解	c	価値発見・定義	c	設計	d	検証（顧客・ユーザー視点）	c	その他のデザイン技術	d	データ・AIの戦略的活用	b	データ・AI活用戦略	c	データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	c	データ活用	数理統計・多变量解析・データ可視化	数理統計・多变量解析・データ可視化	d	機械学習・深層学習	d	データ活用基盤設計	d	データ活用基盤実装・運用	d	コンピュータサイエンス	d	チーム開発	d	ソフトウェア設計手法	d	ソフトウェア開発プロセス	c	Webアプリケーション基本技術	d	フロントエンドシステム開発	d	データ活用	バックエンドシステム開発	バックエンドシステム開発	d	クラウドインフラ活用	d	SREプロセス	d	サービス活用	c	フィジカルコンピューティング	c	その他の先端技術	d	テクノロジートレンド	c	セキュリティ体制構築・運営	d	セキュリティマネジメント	c	インシデント対応と事業継続	c	データ活用	プライバシー保護	プライバシー保護	b	セキュリティ設計・開発・構築	d	セキュリティ運用・保守・監視	d	リーダーシップ	a	コラボレーション	b	ゴール設定	a	創造的な問題解決	b	批判的思考	a	適応力	b
カテゴリー	サブカテゴリー	スキル項目																																																																																																																
ビジネス変革	戦略・マネジメント・システム	ビジネス戦略策定・実行	d																																																																																																															
		プロジェクトマネジメント	c																																																																																																															
		変革マネジメント	c																																																																																																															
		システムエンジニアリング	c																																																																																																															
		エンジニアリング・開発	c																																																																																																															
		プロジェクトマネジメント	b																																																																																																															
		ビジネス調査	c																																																																																																															
		ビジネスモデル設計	d																																																																																																															
		ビジネスアナリシス	c																																																																																																															
		検証（ビジネス視点）	c																																																																																																															
デザイン	マーケティング	マーケティング	d																																																																																																															
		プランニング	d																																																																																																															
		顧客・ユーザー理解	c																																																																																																															
		価値発見・定義	c																																																																																																															
		設計	d																																																																																																															
		検証（顧客・ユーザー視点）	c																																																																																																															
		その他のデザイン技術	d																																																																																																															
		データ・AIの戦略的活用	b																																																																																																															
		データ・AI活用戦略	c																																																																																																															
		データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価	c																																																																																																															
データ活用	数理統計・多变量解析・データ可視化	数理統計・多变量解析・データ可視化	d																																																																																																															
		機械学習・深層学習	d																																																																																																															
		データ活用基盤設計	d																																																																																																															
		データ活用基盤実装・運用	d																																																																																																															
		コンピュータサイエンス	d																																																																																																															
		チーム開発	d																																																																																																															
		ソフトウェア設計手法	d																																																																																																															
		ソフトウェア開発プロセス	c																																																																																																															
		Webアプリケーション基本技術	d																																																																																																															
		フロントエンドシステム開発	d																																																																																																															
データ活用	バックエンドシステム開発	バックエンドシステム開発	d																																																																																																															
		クラウドインフラ活用	d																																																																																																															
		SREプロセス	d																																																																																																															
		サービス活用	c																																																																																																															
		フィジカルコンピューティング	c																																																																																																															
		その他の先端技術	d																																																																																																															
		テクノロジートレンド	c																																																																																																															
		セキュリティ体制構築・運営	d																																																																																																															
		セキュリティマネジメント	c																																																																																																															
		インシデント対応と事業継続	c																																																																																																															
データ活用	プライバシー保護	プライバシー保護	b																																																																																																															
		セキュリティ設計・開発・構築	d																																																																																																															
		セキュリティ運用・保守・監視	d																																																																																																															
		リーダーシップ	a																																																																																																															
		コラボレーション	b																																																																																																															
		ゴール設定	a																																																																																																															
		創造的な問題解決	b																																																																																																															
		批判的思考	a																																																																																																															
		適応力	b																																																																																																															

【凡例】 a・・・高い実践力と専門性が必要 b・・・一定の実践力と専門性が必要 c・・・説明可能なレベルで理解が必要 d・・・位置づけや関連性の理解が必要

2. e ラーニング・アセスメント

DX人材ラーニング・アセスメントプラットフォーム



学習画面

The learning screen displays a dashboard with various data visualizations and course modules. A blue box highlights the '学習画面' (Learning Screen) label.

管理画面

The management screen shows course management, user statistics, and a calendar. An orange arrow points from the '受講コース一覧' (List of courses being taken) button to the '受講コース一覧' section. Another orange arrow points from the 'コーススケジュール' (Course schedule) button to the 'コーススケジュール' section. A blue box highlights the '管理画面' (Management Screen) label.

AI人材育成
特別部門賞受賞



企業DX人材育成
特別部門賞受賞



全社員向け DX リテラシー アセスメント



アセスメント結果

キカガク for Business

採点結果

成績 ①

総合得点 正解率 100% ランク ③ SS

72 点 / 72 点

比較： 標準データ 比較

あなた 72 / 72 14 / 14 6 / 6 16 / 16 16 / 16 8 / 8 12 / 12

SAI 21 / 72 6 / 14 1 / 6 5 / 16 3 / 16 2 / 8 4 / 12

グループ 29 / 72 7 / 14 2 / 6 6 / 16 6 / 16 3 / 8 5 / 12

データ活用
デジタル技術活用
組織変化への対応
マインドスタンス
DXの背景
データ収集
データ分析
データ活用
デジタル技術活用
組織変化への対応
マインドスタンス
DXの背景
データ収集
データ分析

すべての解答は、右の「解答を見る」ボタンからご確認いただけます。

成績詳細

マインド・スタンス 13/14

顧客・ユーザーへの共感 1/2

Q.01 当てはまると感じるものを1つ選択し、回答してください。
DXに関する知識を習得するために自身でウェビナーの参加、書籍の購入、e ラーニングの受講などを通して学習を行っている。

非常にあてはまる
 あてはまる
 どちらともいえない
 あてはまらない
 全くあてはまらない

不正解

Q.02 当てはまると感じるものを1つ選択し、回答してください。
DXに関する知識を習得するために自身でウェビナーの参加、書籍の購入、e ラーニングの受講などを通して学習を行っている。

非常にあてはまる
 あてはまる
 どちらともいえない
 あてはまらない
 全くあてはまらない

不正解

満足にじらわれない実感 2/2

反復的なアプローチ 2/2

変化への適応 2/2

コラボレーション 2/2

柔軟な意思決定 2/2

事実に基づく判断 2/2

Why 6/6

キカガク for Business

テスト受検

残り 1:00 中断する

マインドスタンス > 変化への対応

7% 完了 (2/36問中)

Q.02 当てはまると感じるものを1つ選択し、回答してください。
DXに関する知識を習得するために自身でウェビナーの参加、書籍の購入、e ラーニングの受講などを通して学習を行っている。

非常にあてはまる
 あてはまる
 どちらともいえない
 あてはまらない
 全くあてはまらない

解答する

テスト概要

9:41 残り 1:00 中断する

テスト受検

マインドスタンス > 変化への対応

7% 完了 (2/36問中)

Q.02 当てはまると感じるものを1つ選択し、回答してください。
DXに関する知識を習得するために自身でウェビナーの参加、書籍の購入、e ラーニングの受講などを通して学習を行っている。

非常にあてはまる
 あてはまる
 どちらともいえない
 あてはまらない
 全くあてはまらない

解答する

経産省「DXリテラシー標準」準拠
知識力・思考力・マインドセットを定量評価

推進人材向け DX 推進スキルアセスメント



ダッシュボード

The screenshot shows the results of a DX Academy Business skills assessment. At the top, it displays a total score of 48/48 points, a rank of SS, and a completion rate of 100%. Below this, there's a radar chart showing performance across five dimensions: ビジネス変革 (Business Transformation), デザイン思考 (Design Thinking), データ活用 (Data Utilization), テクノロジー (Technology), and パーマネント学習 (Continuous Learning). The chart has concentric rings representing different levels of achievement. A legend at the top right indicates that dark blue represents '高い水準' (High level), light blue represents '一般的な水準' (General level), and grey represents '低い水準' (Low level). On the left side, there are sections for '成績' (Results) and '業務慣用' (Business Proficiency), each with a list of questions and their answers. The '業務慣用' section includes a question about reading answers from a QR code. The bottom part of the page shows detailed results for various skill categories like Business Model - Proセセス, Design Thinking, Data Utilization, Technology, and Continuous Learning, each with a score of 2/2.

テスト概要

キカク for Business

テスト受検

残り 1:00 中断する

ビジネス変革 > 戦略・マネジメント・システム 0%完了 (1/24問中)

Q.01 企業の全ての部門や機能を統合することで業務フローを効率化し、情報の共有を容易にするシステムとして、最も最適なものを選べ。

CRM

ERP

PLM

SCM

管理者画面へ

キカク for Business

テスト受検

残り 1:00 中断する

ビジネス変革 > 戦略・マネジメント・システム 0%完了 (1/24問中)

Q.01 企業の全ての部門や機能を統合することで業務フローを効率化し、情報の共有を容易にするシステムとして、最も最適なものを選べ。

CRM

ERP

PLM

SCM

管理者画面へ

経産省「DX推進スキル標準」準拠 ビジネス変革・データ活用・テクノロジー・ セキュリティ・パーソナルスキルを定量評価

機能紹介 ① アセスメント後のレコメンド



- ✓ 個々人のアセスメント結果をもとに、おすすめの e ラーニングを提案
- ✓ ダッシュボード画面に進捗率を表示
- ✓ 一覧画面、リマインダー機能も用意

キカガク for Business

採点結果

成績

総合得点 正答率 100% ランク SS

72 点 / 72 点

比較：組織・グループ 回数

	総合得点	マインド・スタンス	DXの背景理解	データ	デジタル技術	活用方法・事例	留意点
あなた	27.2 / 72	5.8 / 14	1.8 / 6	5.5 / 16	5.7 / 16	3.5 / 8	4.8 / 12
ここに所属する企業	21 / 72	6 / 14	1.5 / 6	5 / 16	3 / 16	2.5 / 8	3 / 12
ここに所属するグループ名	29.8 / 72	7 / 14	2 / 6	6.2 / 16	6 / 16	3.6 / 8	5 / 12

アセスメント結果の傾向から、あなたにおすすめの学習コンテンツを見る

アセスメントおすすめを受講

成績詳細

マインド・スタンス | 12/14

顧客・ユーザーへの共感 | 1/2

キカガク for Business

採点結果

成績

比較：組織・グループ 回数

DXの背景

マインド・スタンス データ活用

留意点 デジタル技術活用

活用方法・事例

アセスメントおすすめコンテンツ一覧

下記のリストから学習項目を押下すると、選択された学習画面に遷移します。

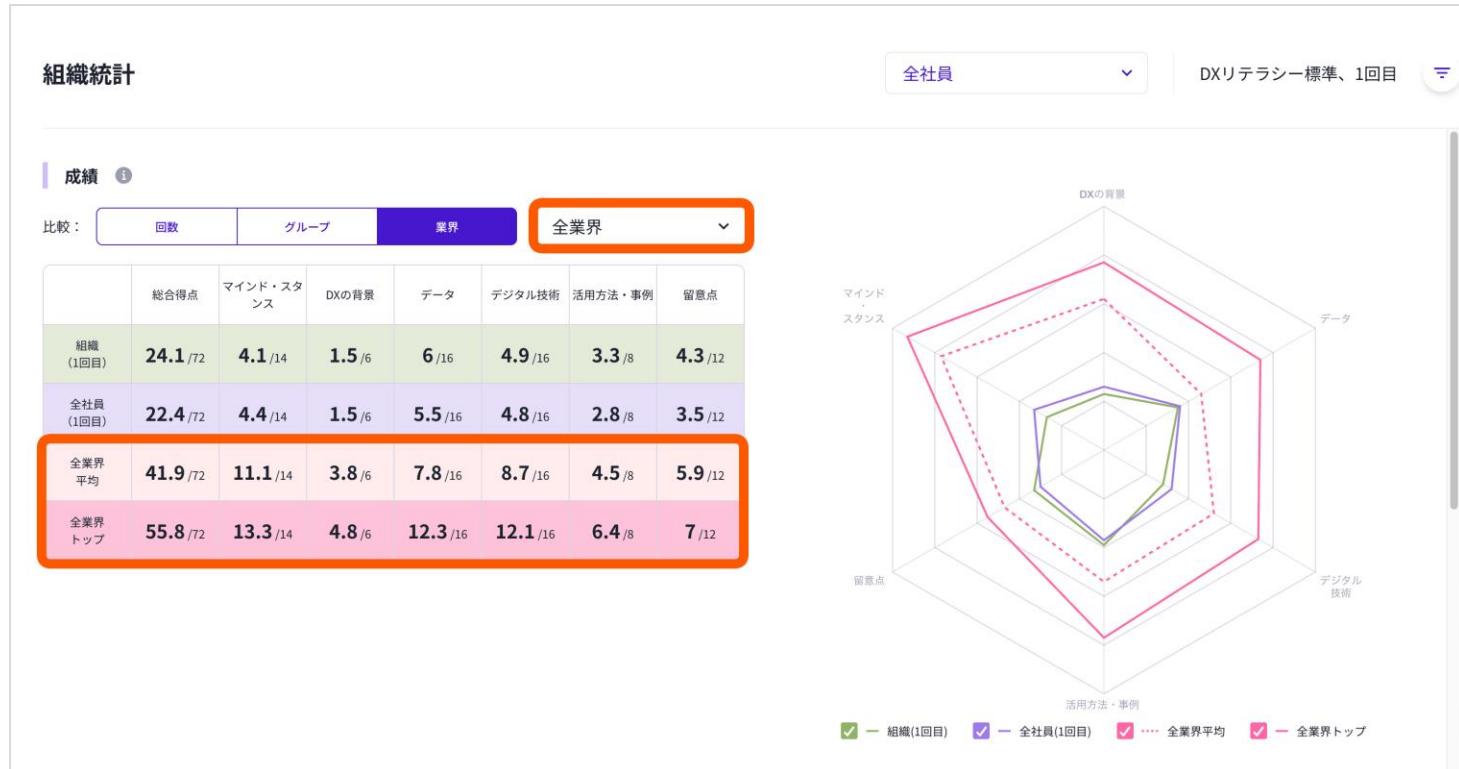
コース/セクション	進捗
DXリテラシー標準アセスメント対応コース / DXで活用されるデータ	○
社会におけるデータ（動画）	○
社会におけるデータ（テスト）	○
DXリテラシー標準アセスメント対応コース / DXで活用される技術	○
AI（動画）	○
AI（テスト）	○
クラウド（動画）	○
クラウド（テスト）	○

解答を見る

機能紹介 ② 業界比較



- ✓ 自社内での比較だけでなく、業界比較による客観的に現在地の把握が可能
 - ✓ 業界レベルを認識したうえで育成方針の策定



閲覧可能な業界

閲覧可能な業界は会社が所属する業界と全業界
現在、管理画面上で平均点、トップ企業を確認できる
業界は以下（※順次業界追加）

- ・サービス・インフラ
 - ・製造業
 - ・商社
 - ・ソフトウェア・通信
 - ・広告・マスコミ
 - ・金融
 - ・官公庁・公社・団体

※ 本機能により、アセスメントご利用の企業名が他社に伝わることはございません。

※ DX リテラシー・アセスメントのみの機能となります。

DX リテラシー アセスメント 活用事例



経産省「DX リテラシー標準」に準拠し、知識力・思考力・マインドセットを定量評価するアセスメント
導入実績 約300社 (2025年1月時点)

活用事例パターン

① 企業のDXリテラシー合格基準として活用

経産省の定めた日本企業に求められるDXリテラシーの基準に準拠していることから、各企業のリテラシー合格ラインの基準としてご活用いただく事例

② DX研修の効果測定として活用

全社DX / デジタル研修から階層別研修や部署別研修等、DX人材育成研修の効果測定として実施前、実施後の成長率を可視化する目的でのご活用事例

③ メンバー選抜の基準として活用

選抜DX / デジタル研修の受講生選抜・社内DXプロジェクト配属メンバー選抜・未経験エンジニア育成メンバーの選抜基準としてご活用いただく事例

企業事例

✓ 自動車部品製造メーカー（社員規模15,000名）

✓ 大手印刷メーカー（社員規模40,000名）

✓ 大手食品サービス企業（社員規模7,000名）

✓ 建設機械メーカー（社員規模60,000名）

✓ 大手素材メーカー（社員規模30,000名）

✓ オフィス機器メーカー（社員規模2,000名）

✓ デジタルマーケティング企業（社員規模50,000名）

✓ バッテリー製造メーカー（社員規模20,000名）

✓ Sler企業（社員規模200名）

3. カスタマイズ研修

ポイント 1

講義力・講師力に長けた
教えるプロ人材を登用

業界認定講座多数



ポイント 2

講座制作の全工程を内製化
企業に合わせてカスタマイズ

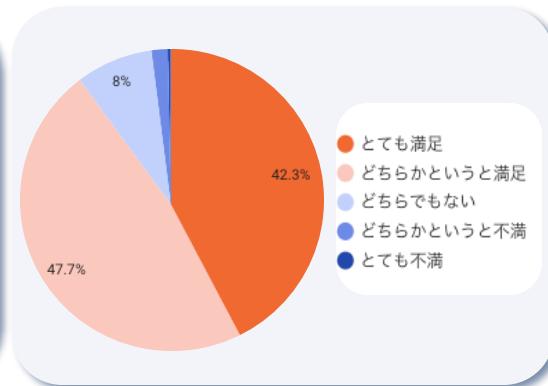


教育のプロフェッショナルである内製講師と実践経験豊富な認定パートナー講師が
それぞれの強みを融合し、ご受講生の成長と実践力向上を実現



豊富な講師数

100
人以上



受講生満足度

90%

※ 人数：キカガクの講師育成プログラムを受けた認定パートナー講師を含む
※ 満足度：パートナー講師と内製講師を含むアンケート評価の肯定回答数割合（5段階）

講師・コンサルタント紹介



研修事業部技術統括マネージャー / DX コンサルタント

大手自動車メーカー様、人材育成プロジェクトのマネージャーや大手通信事業会社様のDX人材認定制度コンサルタントなどを担当。経営層、部長職セミナー等、登壇実績多数。



教育コンサルティング部門リーダー / DX コンサルタント

講師チームリーダー及び講師として登壇、教材開発等に従事。製造業を中心に複数業界の大手企業様へ深層学習・データサイエンス領域 / DXの企画立案や等ビジネス人材向け研修の登壇実績多数。



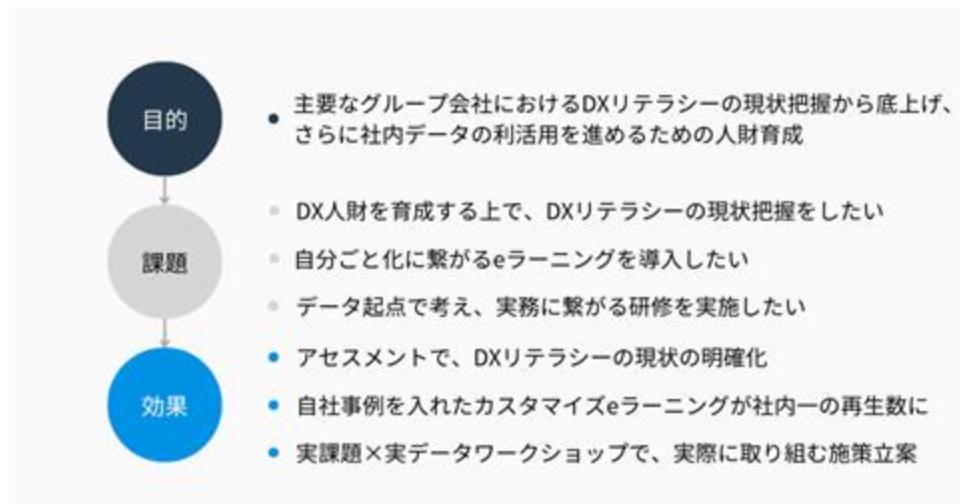
キカガク認定パートナー講師

大手通信会社にて新規事業開発に従事し、その後 AI コンサルを経験。キカガクにて生成 AI や新規事業企画立案など、ビジネスアーキテクト領域の研修に登壇。CompTIA A+ や技術系資格を複数保持。

研修を研修で終わらせない「カスタマイズ研修」



株式会社西武ホールディングス様



実課題×実データで、実際に取り組む施策を立案

ワークショップで実データを使用した背景はありますか？

渡邊様：

一般的な研修の課題として、サンプルデータでは疑似体験はできても、実際のデータを使わないと実務での活用に繋がらないことがあると思います。

つまり、**自身の業務に使えるかもしれないデータの存在と価値を知り、実際にそれを活用して具体的な施策まで立案することで、すぐに実務でも使えるイメージを持ってもらいたい**という背景でした。

まず私達から、どんなテーマで、どんな内容にすればよいかのイメージを共有させて頂きました。

そこから、活用できるデータ、追加で必要なデータ、具体的なデータ分析やその解釈、適切な研修時間の設計や解説する項目の意味付け、そして最終的なアウトプットの形など、**研修設計の視点**や受講生の視点も踏まえ、**具体的な研修に落とし込んで下さいました。**

数値化やビジュアル化で現状を正しく把握できるアセスメント

アセスメントをキカガクに決めた背景等を教えてください。

田口様：

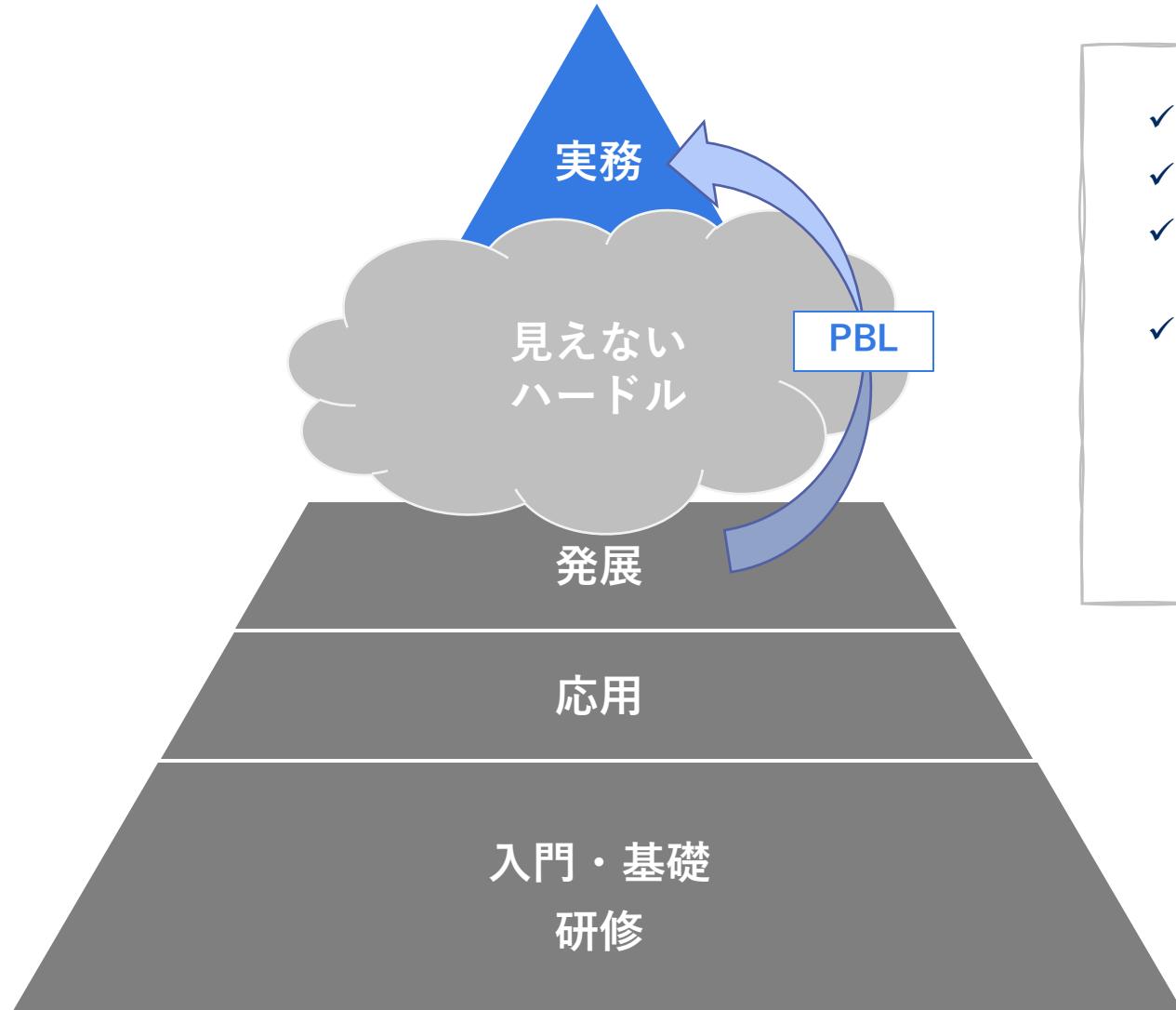
まず大前提として、**DXリテラシー標準に準拠したアセスメント**を探していました。その中で、知識だけでなくマインド面も測定できたり、カテゴリーごとに問題が設定されていたり、ランダムに問題が出るところも他社と比較し高評価でした。

館岡様：

本アセスメントでは、**自社の結果が定量値やビジュアルでわかるだけでなく、全受験企業の平均との比較や同業界での比較などから自社のリアルな現状がわかるので、注力しないといけない**という危機感や、**どこに注力すればよいのかが明確になる**ことに感銘を受けました。

4. 課題解決型 PBL 研修

課題解決型 PBL 研修



- ✓ どんな課題に取り組めばいいかわからない
- ✓ 一人での実施が不安、サポートがほしい
- ✓ プロジェクト推進に他部署や上長の承認が必要 時間と心理的コストがかかる
- ✓ データの取得や環境構築がうまく行かず、最初の一歩目が踏み出せない

学んだ内容も忘れ、モチベーションが低下
研修を受けただけで終わってしまう



受講生

課題解決型研修 (PBL) を実施
育成プログラム内で実務に適用

PBL 実施ステップ



説明の概要について	説明の内容について	その他のご質問などございましたらお問い合わせください。
説明の概要について	費用、料金に納得して頂けますか。	
説明するデータについて	どのようなデータを提出する場合は同じくして頂けますか。	ご提出するにあたっては、ある場合は複数回をもってしてご説明が可能でございます。
ご質問の内容について	説明の概要よりデータを引いて、解説する際は問題ないでいいとお聞かせ頂きましたがどうですか。	解説の際によりアプローチや発想などの視点で異なりかと思います。
お問い合わせについて		お問い合わせについて、おおよそどの程度の回答を、お待ちを願っていますか。

Step.1 課題ヒアリング・テーマ選定

- 受講生が現場の課題を持ち寄り、それに対し弊社コンサルタントがフィードバック
 - 実現可能性、有用性、経済性等の観点から課題に優先度をつける
 - 取り組むテーマや受講生の知識・技術レベルに応じて、必要であれば追加のインプットを提案

Step.2 実行計画書の策定

- テーマが決まり次第、実行計画書の策定を行う
 - 全体スケジュールに対し、いつまでに何を行うかどんな状態が望ましいのかを定義
 - PoC設計に関しては弊社コンサルタントのフィードバックを得ながら進め方や技術的な方針を決定

Step.3 実施・成果報告

- 実行計画に沿って、環境構築・データ取得・加工・前処理・分析・モデル構築・検証等を行う
 - 疑問・質問はチャットサポートやメンタリング時間を利用して解決（QAは取りまとめて全体へ共有）
 - 弊社コンサルタントはあくまでサポートに徹するため、受講生の問題解決力・自走力が求められる
 - 試行錯誤した結果はレポートにまとめ最終的な成果物として発表

PBL 運営フロー・スケジュール



□ : 成果物

メンタリング

中間報告

最終報告

		PBL 1ヶ月目				PBL 2ヶ月目				PBL 3ヶ月目			
		1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w
① 企画・構想	<ul style="list-style-type: none"> ■ テーマアップ ■ PoC設計 ■ スケジューリング 	#											
② 環境構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仕様ツール選定 ■ 仮想マシン立ち上げ等 		#										
③ データ収集	<ul style="list-style-type: none"> ■ データ量・質の確保 			#									
④ データ前処理	<ul style="list-style-type: none"> ■ データ加工 ■ 特徴量抽出 				#								
⑤ 分析・モデル構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ 分析・調査 ■ アルゴリズム検討 					#	#	#	#				
⑥ 検証	<ul style="list-style-type: none"> ■ モデル精度改善 ■ プロトタイプ構築 									#	#	#	
⑦ 成果報告	<ul style="list-style-type: none"> ■ レポート作成 ■ 発表 											#	

5. 受託開発・コンサルティング

DX・AI の力でビジネス成果の創出を支援

AI システム開発



課題整理のコンサルティングから、PoC、本番モデル開発、システム実装までを一気通貫してサポートします。

データ分析・活用



データ分析から課題発見・施策提案を行います。
統計、数理最適化、効果検証など幅広い分野に対応可能です。

データ分析基盤構築



データの収集、蓄積、分析までのデータ基盤の構築を行います。
Azure, AWS, GCP のどのクラウドサービスにも対応可能です。

ChatGPT/AOAI 導入支援



ChatGPT/Azure OpenAI Service の導入からシステムの実装、導入後のコンサルティングまで一気通貫でサポートします。

事例紹介：AI システム開発、データ分析・活用



	予測 / 分析	画像解析	言語解析	最適化	その他
運輸 / 物流 / 運送 / 資源 / エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 需要予測 	<ul style="list-style-type: none"> 運転手眠気推定 		<ul style="list-style-type: none"> 配送ルート 電力供給 	
製造 / 自動車 / 精密機器 / 重工機械 / 造船 / 素材	<ul style="list-style-type: none"> 需要 / 流入量予測 異常検知 コスト予測 	<ul style="list-style-type: none"> 異常検知 作業動画解析 対象物トラッキング OCR ネイティブアプリ 	<ul style="list-style-type: none"> 社内文書仕分け 類似文書検索 チャットボット 	<ul style="list-style-type: none"> 生産計画 在庫管理 人員配置 機器パラメータ 	
金融 / 保険 / 証券	<ul style="list-style-type: none"> 与信審査 				
医療 / 医薬品 / 医療機器	<ul style="list-style-type: none"> 病状診断 HD 治療血圧低下予測 遺伝子情報配列解析 心電図不整脈診断 	<ul style="list-style-type: none"> MRI 画像 セグメンテーション 細胞検出 			
小売 / 食品	<ul style="list-style-type: none"> 需要 / 流入量 / 来客予測 市場価格予測 ライフスタイル分析 レコメンド 来客予測 	<ul style="list-style-type: none"> レシート OCR 	<ul style="list-style-type: none"> 文字列マッチング (類似文検索) レビュー分析 	<ul style="list-style-type: none"> 在庫管理 	
情報通信 / SaaS / インターネット	<ul style="list-style-type: none"> チャットログ分析 ワークエンゲージメント 予測 人流データ解析 		<ul style="list-style-type: none"> チャットボット 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 離職予測 センサス分析 要因・関連分析 	<ul style="list-style-type: none"> エッジカメラ 衛生画像処理 顔 / 物体検知 姿勢推定 	<ul style="list-style-type: none"> LLM 連携 機械翻訳サービス 文章クラスタリング テキスト要約 ネガポジ解析 	<ul style="list-style-type: none"> HR データ解析 広告、プロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> LMS 開発 Webアンケート システム構築

事例紹介

DX人材構成

DX人材の構成を下記のように定義しました



全社教育でのポイント

1. トップダウンで間接部門3,500名にリテラシースキルを定着させる取り組みをスタート
2. eラーニングだけではなく、全員がリアルタイム研修のアウトプットを卒業要件として実施
3. 全社でDX事例、PBLやコンテンツ記事を定期的に発信するTeamsコミュニティを立ち上げ、その中で受講生の公募を実施

事例：住友重機械工業株式会社

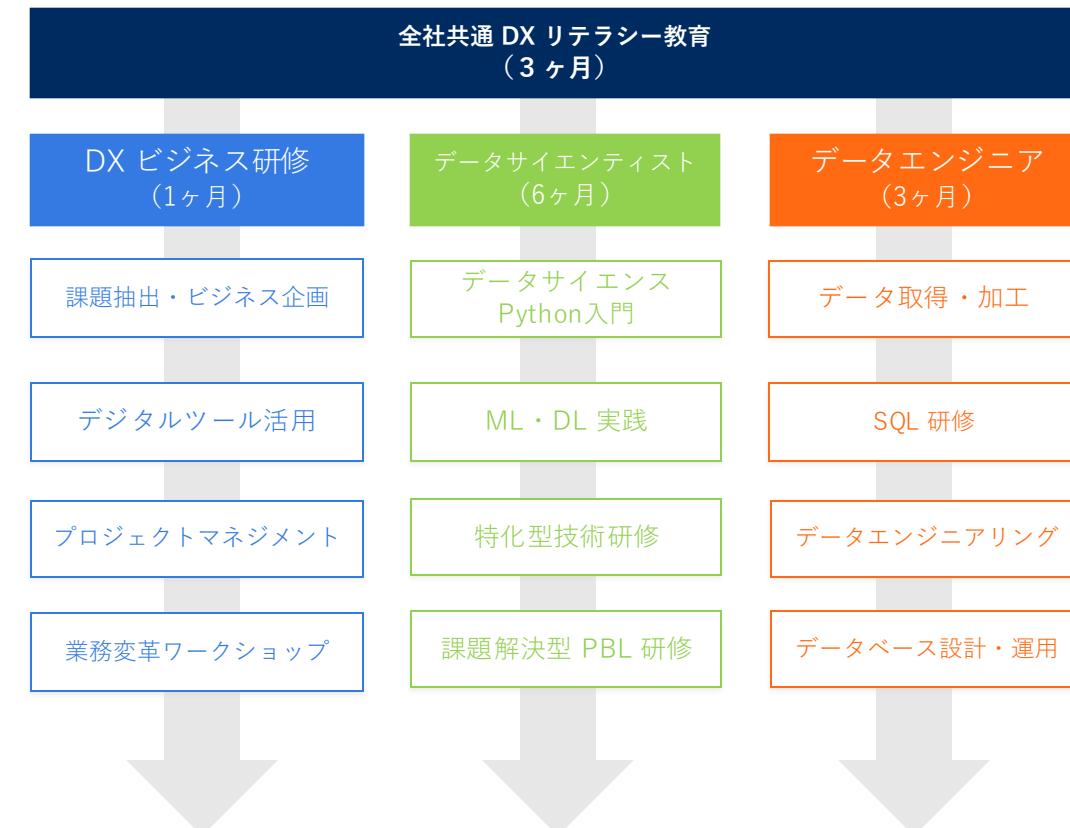


技術本部に向けた専門人材向け PBL 研修から 3 年間で全社 DX 人材研修へ

課題・背景

- 技術本部から、先端技術研修の導入はしているが、現場での応用や活用に繋がっていない。
- 実課題から逆算した、PoC 企画の立案や AI モデル開発を一連の流れで学び、自社の課題を題材にしたカスタマイズ研修を実施
- 成功事例の共有会から、教育→活用を見据えた研修の部署展開につながる
- 組織全体への拡大のため DX レベル底上げ、全社員を対象にした e ラーニングシステムの導入へ踏み出し、全社横断型の DX 育成体型へと繋がった

全社共通 DX リテラシー教育 (3ヶ月)



事例：住友重機械工業（全社 DX 人材育成の拡大）



発展・PBL

データサイエンティスト協会
独り立ちレベル

④【PBL】

対象者：技術本部
人数：5名
決済者：技術本部
提供方法：ライブオン
期間：6ヶ月間
背景：③受講者から選抜
選出をしPBL研修へ

⑦【PBL】

対象者：技術部
人数：7名
決済者：技術部
提供方法：ライブオン
期間：6ヶ月間
背景：⑥受講者から選抜
選出をしPBL研修へ

⑪【PBL】

対象者：技術部
人数：5名
決済者：技術部
提供方法：ライブオン
期間：6ヶ月間
背景：⑩受講者から選抜
選出をしPBL研修へ

応用

データサイエンティスト協会
見習い～独り立ちレベル

①【DL 実践】

対象者：技術本部
人数：20名
決済者：技術本部
提供方法：ライブオン
期間：3日間
背景：問い合わせから AI 研修の受講希望

②【ML 実践】

対象者：技術本部
人数：20名
決済者：技術本部
提供方法：ライブオン
期間：3日間
背景：①の習熟度がよく
同メンバーへ別講座

③【DL・ML 実践】

対象者：技術本部
人数：20名
決済者：技術本部
提供方法：ライブオン
期間：3日間×2
背景：①②の研修を継続

⑥【DL・ML 実践】

対象者：技術本部
人数：20名
決済者：技術本部
提供方法：ライブオン
期間：3日間×2
背景：①②の研修を
2年間継続

⑧【DL・ML 基礎実践】

対象者：全部署
人数：100名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1ヶ月間
背景：全社手挙げ研修
⑤を継続実施

⑩【DL・ML 基礎実践】

対象者：全部署
人数：150名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1ヶ月間
背景：全社手挙げ研修⑧
を拡大し継続実施

基礎

データサイエンティスト協会
見習い

⑤【DL・ML 基礎実践】

対象者：全部署
人数：100名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1ヶ月間
背景：技術本部から人事部
へ横展開に成功

⑨【AI ビジネス企画】

対象者：全部署
人数：60名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1日×3開催
背景：データ分析⑧から
ビジネス研修へ拡大

⑩【AI ビジネス企画】

対象者：全部署
人数：100名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1日×5開催
背景：ビジネス研修⑨の
受講者拡大

リテラシー

全社向け DX 教育

⑪【新人基礎研修】

対象者：新入社員
人数：160名
決済者：人事部
提供方法：ライブオン
期間：1ヶ月間
背景：全部署研修⑧から
新入社員研修へ拡大

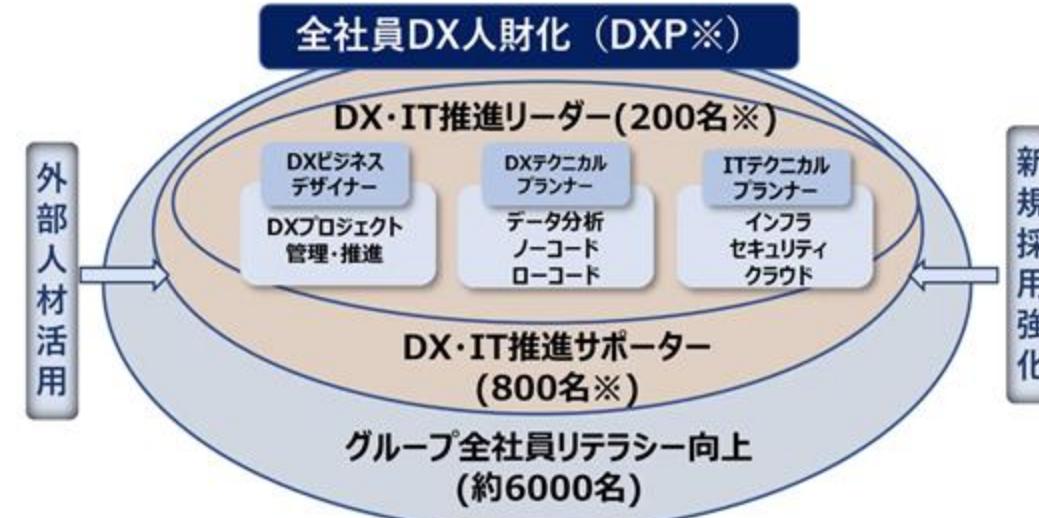
事例：サッポロホールディングス株式会社



サッポロホールディングスの全ての関連会社 外食事業の店舗スタッフまで拡大し 6,000人の DX・IT リテラシー向上をサポート

課題・背景

- 「中期経営計画（2023～26）」をスタートさせ、事業戦略・財務戦略・サステナビリティを支える経営基盤として「DX」を重点活動の1つに位置付け社内でスキルレベル毎に DX・IT 人財を育成を進めていた。
- ビジネスモデルの変革に繋げるため、組織の一部ではなく全社的に DX を推進する組織のあり方や DX の全体像など、全社的に必要な DX 推進の基礎知識やマインドを習得させ DX リテラシーの向上をはかりたい。
- 組織全体のリテラシーレベル底上げが必要となるため、全社員を対象に e ラーニングシステムの導入を検討していたが、運用面やマネジメントも含めたシステムが見つからなかった。



※センター、リーダーは2022年・2023年に育成する人財の合計数

引用：サッポロホールディングス株式会社 プレスリリース
<https://www.sapporoholdings.jp/news/dit/?id=9047>



るべき教育で人の力を解放する

